**Ⅰグループ（ソフト面）で話し合われた内容**

**■目指す学校像について**

・ふるさと諏訪への愛着が持てる心づくり

・自分自身を認める

・先生自身も認める

・自己肯定感を高める

・多様性を認め合える

・世界に目を向ける

・学力をつける

**■学校の特色について**

　　・どの子にとっても学びやすい学校

　　・多くの子が学校で楽しく過ごせる学校

・みんながイキイキとした学校

・自分の意見が言える学校

　　・不登校対応に特化した学校

　　・インクルーシブ教育を導入する

　　・自分たちで考えたことが実現できる

・自分でやりたいことができるとイキイキできる

・中洲・四賀地区は歴史や文化がしっかりしている　地域の方とも繋がり、子供たちもイ

キイキとしてそれらを学んでいる

　　・生徒も楽しむために自分で考える

　　・風樹文庫は歴史文化を感じられる素敵なもの

　　・諏訪南中は「かりん」で地域の人から学んでいる　生徒の柔軟な考えを大人の考えと

融合している

　　・６０～７０代の健康な方がかなりいる　この方たちと学校がリンクして地域との繋が

りを活性化していく

**■人間関係について**

・学校は子供や保護者と人間関係を構築する

・先生がゆとりを持って子供の特性を理解する

・先生のゆとりをつくるには先生たちがリラックスできる場所、運動できるスペースが

必要

・学校の規模が大きくなると問題が起きる　スクールカウンセラーとスクールロイヤー

が入ることでスムーズになる

　　・地域の方々が不登校の子の相談に乗ってくれる

　　・QRコードを使って相談できる仕組みがよい

　　・中洲小学校ホットスペースのように職員が子供の気持ちに寄り添いながらフォローで

きる体制がよい

　　・集団に入れない子供の学習をサポートする

　　・早く気付いて子供の気持ちに寄り添いながら解決に導くことが大事

　　・諏訪南中のワクワクタイムによって不登校だった生徒も学校に来れるようになった

　　・特性のある子は一方で特異な才能があることもある　持ち味が発揮できる場所がある

とよい（鉄道に関心のある子ならジオラマのあるスペースなど）

**■地域連携について**

　　・地域との関わりを繋げてくれる人が必要

　　・学校から地域へのアピールをコーディネーターがうまく繋げられるとよい　学校がや

りたいことと地域がやりたいことをうまくコーディネートする

　　・小中9年間は地域の愛情、コミュニケーション、イベント、歴史を学べる貴重な時間

　　・小中9年間を地域愛の醸成に捧げる

　・小中一貫校は他地域の子供と仲間になることができる　範囲を広げ、チャンスを広げ

　　られる

　　・地域との連携を授業に組み込む（事前に協力依頼を区長にする）

　　・避難訓練、通学路の見回りを地域の方々がボランティアで手伝ってくれている

　　・学校側からも地域に出て行くことが大事

　　・読み聞かせボランティアのシステムを続けていきたい

　　・中学生が地区と連携する（お祭りなどにも参加し、他地区の生徒にも役割を与える）

　　・住民主体の地域づくりを考えていければ地域連携が進む

　　・諏訪の特色を授業で教えるには教師側にも知識が必要　歴史を繋ぐためには教える側

にも教わる側にも継承が必要

　　・コミュニティスクールの充実

**■通学路について**

**■小中の格差について**

　　・地域の方が日頃から入っていけるフリースペースが必要

　　・四賀小には上履きで入れる中庭があり、様々な学年が集える空間がある　とても大事

なスペース

　　・異年齢だけでなく地域の方も集えるスペース

　　・保育園児が行って目がキラキラする場所、楽しい場所があるとよい

　　・小中異年齢になるのでプライバシーが保てる場所があるとよい

**■その他**

　　・3地区で高齢者への手紙を書いたが反応がとてもよかった　学校と地域のやり取りが

できたことがよかった

　　・先生にゆとりがあれば子供たちもイキイキできる

　　・地域の方も参加できる参観日

・フューチャーデザインを想像しないといけない　10年先では世の中変わっている

　　・30年後を意識した学校づくり

　　・AIの進化

**Ⅱグループ（ハード面）で話し合われた内容**

**■大規模学校（1,300人規模）について**

・施設一体という方向性の中でどういう形が考えられるか

・敷地が限られていたり、現在の施設の老朽化も考慮する必要がある

　　・少人数の学級を実現するためにはより多くの教室が必要

　　・小中が一体になれば今の倍の面積が必要になる

・周辺敷地の買収が必要、それに伴う財源も必要

・小学校スペースと中学校スペースを明確にしたうえで共有スペースが必要

・現施設の活用は難しい

・教室があればいいという考えでなく、建物の高さを出す検討が必要

・作りたい施設（設備）が明確になれば逆算して床面積が算定されるのではないか

・建設のタイミングで適切に広めのスペースを確保することが必要

・施設が一体となっているのか敷地が一体なのかイメージが難しい

**■施設について**

　　教室・部屋

・余裕のあるスペースがあり、落ち着けるような施設がよい

　　・学校に来るのが難しい児童生徒のための学びの場の確保が必要

　　・保護者も気軽に訪れることができる場所がよい

　　・教室をオープンスペースにし、パーテーションで囲ったり、オープンにしたり、様々

な使い方ができるとよい、その際には防音性にも配慮する必要がある

　　・メリット、デメリットを考えながら検討する必要がある

　　・教室を共有した場合に小中学生の体格差をどう考えるか、例えば椅子の可変設備の導

入が考えられるが、機器の調整を誰がするのか検討が必要

　　・共有スペースを増やすことにより体格差がネックになる

　　・専門的な教室は小中で分ける必要がある

　　・特別教室は小中で一つにし、時間割で使い分ける（小中の時間軸をある程度揃える必

要あり）

　　・特別教室などは複数あった方がよい

　　体育館、グラウンド

　　・体育館を２階建てにすることで小中で使い分けができる

　　・全校集会を全体でやることを考えると体育館を大きく作る必要がある

　　防災・環境

　　・太陽光パネルと蓄電池を配備し、防災拠点としての役割を果たすことが必要

　　・電気を自給できる場所が必要

・跡地を災害時の車中泊の場所として活用

　　・電気が止まってもしばらく自給できる設備

・飛散防止のガラス窓とする

　　・防災拠点として防災機能が充実した施設を整備

　　・災害時にカマドになるベンチの導入

　　給食室

　　・可能な限り自校給食を目指して欲しい（大規模給食室の整備）

　　・子ども達にとって給食は非常に重要な役割を持っている

　　・混雑するので時間差での配膳や数か所で受け取れる場所の設置の検討

　　・給食を児童生徒が取りに行くのではなく、例えば支援員が届けるなど発想を大きく変

えていく必要がある

　　その他

　　・エレベーターの検討

　　・スクールバスとロータリーの検討

　　・理想は沢山あるが、優先順位を明確にして検討を進める

　　・児童クラブの敷地の確保

　　・屋上の有効活用

　　・遊具を共有スペースに設置することで交流が生まれる

　　・地下の活用

　　・保護者の送迎スペースの検討

　　・四賀・中洲小は山や畑などの自然があるが、新校舎でも実現されればよい

　　・職員室を校舎の真ん中に置くことが考えられる

　　・図書館が共有スペースとして重要な役割を果たすと考えられる

　　・バリアフリーを意識した建物（エレベーターの設置）

　　・国によってはトイレ清掃は大人の仕事とされているなど、発想を変え学びの場を考え

ていく必要がある

**■通学路について**

　　・通学路の危険個所の改善

　　・通学距離が長くなることへの懸念

　　・低学年など小さい児童への配慮

　　・学校の整備と併せて道路の整備も

　　・通学路の照明の整備

　　・歩道・車道幅の確保

　　・ガードレールの整備

　　・老朽化した歩道の整備

　　・現在の学区でさえ低学年の足では端から歩くのが大変

　　・学区がハードルとなって若い世代が流出している区もあるので配慮を

　　・上社線信号と校舎の入口を変えて欲しい　信号が短い

　　・スクールバスの希望が多い

　　・不審者情報を共有して欲しい

　　・危険個所マップを小学校で作っているが低学年や転入者への共有の徹底

　　・通学時間と通勤時間が重なり危険

**■小中の格差について**

　　・小中学生が交流するフリースペースを各階に設ける

　　・移動に時間がかかるため動線についてよく考えて建設する

　　・小さい子供が過ごしやすい動線を考える

　　・コの字型の校舎はバルコニーで向かい合って歌を歌える

　　・多目的スペースは共有スペースとして小中を越えた交流の場になる

　　・フロアは大きいものを作ったうえで人数の変動に合わせてパーテーションで柔軟に部

屋の大きさを変える

　　・共有スペースを真ん中に配置し、低学年エリアと高学年エリアを分ける

**■その他**

　 ・小中で給食の基準が違う　大規模校となると栄養士の配置も配慮が必要

　　・中洲小の跡地利用として体育館、グラウンド、児童クラブ棟の活用

　　・建物だけでなく周辺の整備も必要

　　・跡地利用もセットで考える